

ブレメン経済工科大学 交換留学報告書

静岡県立大学

国際関係学部 国際関係学科 3年

私は3年次の2022年4月から2022年8月までの約5ヶ月間、ドイツのブレーメン経済工科大学での交換留学を行った。

留学が決まると、大学からブレーメンでの滞在先を探すことのできるサイトを案内された。私は他の留学生たちと生活を共にしたいと思い、5人のシェアハウスを選択した。ルームメイトはブラジル人が二人とスペイン人とフランス人が一人ずつおり、共通語は英語であった。全員がブレーメン経済工科大学への留学生であり、すぐに仲良くなることができた。彼らとは旅行に行ったり、料理を一緒に作ったり、部屋を暗くしてホラー映画を見漁ったりなどして、とても楽しい時間を過ごすことができた。

次にブレーメンでの生活について述べたいと思う。ゼメスターチケットがあればトラムとバスを無料で利用でき、ほとんどの場所を移動することができたのは非常に便利であった。しかし、ドイツの公共交通機関は日本の公共交通機関とは事情が異なり、遅延、キャンセルが日常茶飯事であったことも併せて伝えておきたいと思う。トラムが機能停止し、市街から家まで歩いて帰ることはよくあることであった。ストライキなどの理由でトラムが機能停止することもあったが、サッカーの試合がブレーメンで行われたときには必ず公共交通機関は混乱

していた。試合がある日には街中が緑の Werder Bremen のチームのユニフォームで溢れかえっていた。ブレーメンは決して大都会ではないが、その分サッカーの試合がある日は地元の人々のブレーメン愛や情熱を肌で感じる事ができた。私は静岡出身であるが、一つのことでもここまで街全体が一つになる空気感は静岡では感じたことがないものであった。それには少し戸惑いつつも、とても羨ましくも思った。

次にブレーメンでの大学生活について報告する。私は履修登録で上限分の講義を登録し、自分の興味に合わせて講義を絞っていった。最終的には 15 単位分の講義を履修し取得した。講義を減らした理由は、自分の語学力向上のために時間を注ごうと思ったこと、週末を使って国内旅行をたくさんしようと思っていたことの 2 つである。講義を少なくした分、気合を入れて机に向き合うことができたし、たくさんの場所に足を運ぶことができたと思う。

ドイツの講義では日本のものより、発言を求められることが多かった。世界各国から来た留学生と同じ教室で学ぶため、授業内容に関する各国の具体的事例を講師が尋ね、軽い議論を行うような日も少なくなかった。講師、学生の両方から、日本のことを詳しく聞かれることが多く、日本が世界第三位の経済大国であ

ることを強く実感した。留学前は日本経済のニュースや記事をあまりフォローしてこなかったし、それを英語でアウトプットする経験をしてこなかったのも、うまく伝えることができなかった。講義も半分にさしかかったあたりから、相手の質問を理解し、答えることができる知識と表現力が身につけてきたことを実感でき、少し自信がついてきたことを覚えている。語学面でかなりの不安があった留学であったが、なんとかやり切ることができた。そこで学んだのは、誤魔化さず、相手の目を見て話すことの大切さだ。そうすることで、相手も真剣に話を聞いてくれ、そしてそれが良いコミュニケーション、ひいては良い人間関係につながるということ学んだ。

たくさんの友人を作ることができたことは留学で得た一番の財産であると思う。ブレーメン経済工科大学には日本語学科があり、彼らとは月に何度もヴェーザー川で飲み会を行った。彼らからはドイツでの生活についてやドイツの文化を教えてもらったし、逆に私は日本のことを彼らにたくさん話した。飲み会の席ではあったが、「自分は国際人だ」と話してくれた根っからのドイツ人との会話は特に印象的だった。将来は、日本はもちろん多くの国で生活をしたい、自分はドイツに縛られていないと言っていた。国際人を語る彼以外にも、外国で仕事をしたいという日本語学科の学生は非常に多かった。

ドイツは非常に豊かな国で、外国に行かねば高給な仕事が無いという国ではない。それにもかかわらず、日本などの外国に目を向けている学生が多くいることは新鮮であった。そんな彼らとの交流で私自身も変わることができた。将来のことで、より多くの選択肢を頭に浮かべることができるようになった。

日本語学科の学生のおかげで、私はとても刺激的な交換留学をすることができた。そんな彼らの多くは今、静岡県立大を含む日本全国の大学に交換留学をしている。彼らと日本でまた会うことができるのはとても嬉しい。彼らがしてくれたように、私もまた彼らの留学の助けをし、より深い友達になりたいと思う。